

基礎総合（解剖）

科目責任者 上 田 秀 一
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

基礎総合科目は、これまで学んだ基礎医学・臨床医学を総復習し、各教科を有機的に結合して理解するために作られた教科である。画像診断等の基礎となるマクロ・顕微鏡による正常組織と検査データの基礎となる正常機能・代謝を学び、基礎医学の総復習を行う。当該科目は「解剖学」が中心となる。

II. 担当科（教授）

教 授 上 田 秀 一 解剖学（組織）

III. 一般学習目標

器官、組織の正常構造を理解し、画像診断に必要な基礎的知識を学ぶ。さらに生化学に関する基礎医学知識を深め、病理変化に基づく病態変化を学ぶ。

IV. 学修の到達目標

- 1) 各器官・組織の正常構造を説明できる。
- 2) 各器官・組織の機能を説明できる。
- 3) 種々の生体物質の代謝について説明できる。
- 4) 生体物質の代謝異常が引き起こす疾患について説明できる。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	20	月	4	組織学総論	上 田 秀 一
2		20	月	5	筋1	上 田 秀 一
3		21	火	1	筋2～骨1	上 田 秀 一
4		21	火	2	骨1	上 田 秀 一
5		21	火	3	骨2	上 田 秀 一
6		30	木	1	循環器	上 田 秀 一
7		30	木	2	呼吸器	上 田 秀 一
8		30	木	3	消化器1（口腔～胃）	上 田 秀 一
9	5	1	金	1	消化器2（小腸～肛門）	上 田 秀 一
10		1	金	2	消化器3（肝・胆・膵臓）	上 田 秀 一
11		1	金	3	女性生殖器（含む 生殖器発生）	上 田 秀 一
12		7	木	1	男性生殖器（含む 発生学総論）	上 田 秀 一

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
13	5	7	木	2	泌尿器	上 田 秀 一
14		7	木	3	感覚器1（視覚器）	上 田 秀 一
15		8	金	1	感覚器2（聴覚・平衡覚器）	上 田 秀 一
16		8	金	2	感覚器3（皮膚）	上 田 秀 一
17		8	金	3	神経1	上 田 秀 一
18		13	水	5	神経2	上 田 秀 一
19		13	水	6	神経3	上 田 秀 一

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（5月18日（月））、追・再試験により評価する。

VII. 教科書・参考書・AV資料

参考書として

基礎総合（解剖）・解剖学（組織）教室編を配布する

カラー図解 人体の正常構造と機能シリーズ 日本医事新報社

VIII. 質問への対応方法

基本的に毎回の講義終了時に疑問は解決すること。

講義終了の休み時間、放課後、解剖学（組織）教室において随時受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義自体が学生をあてる質問形式で進めている。解説しながら進行していく。試験問題もその中から提出（10～20題）している。

XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）